

昭和十五年十月十日

高森部隊特殊慰安業務規定

高森部隊

0376

高森部隊警備地区内地方商人ノ
營業ニ関スル規定

第一 本規定ハ當隊警備地区内ニ地方商人ノ營業ニ関スル
件ヲ規定シ將兵殺伐ノ氣風ヲ緩和調劑シ以テ軍紀ヲ確
立セシムルヲ以テ目的トス

從テ聯隊ノ幹部タルモノハ何人ト雖モ本規定ヲ加サシメ
ザル如ク嚴ニ指導監督スルヲ要ス

第二 地方商人ノ營業ヲ許可シ得ルハ左ノ各項ニ該當スル者
ニ限ル

領事館若クハ憲兵隊ノ身元證明書ヲ有スル者ニテ軍
司令官兵站司令官全輸送司令官若クハ兵團長ノ囊
西地区通行許可證其他兵團長ノ居住許可證營業
許可證ヲ有スル者ノ

第三 地方商人ノ營業別及其範圍ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ

許可ス

1. 慰安所

慰安婦ハ皇軍一〇〇名ニ對シ一名ノ割合

慰安所ノ業經營者ハ 三名

2. 飲食店經營者ハ 四名

3. 寫真屋 二名

4. 時計屋 一名

5. 營業場所ハ聯大隊本部附近ニ限ル

6. 營業主ノ使用人ハ身元確實ナル者ニシテ常ニ清潔ナルヲ要ス

7. 飲食店ノ女給ハ各營業主ニ三名ヲ標準トス

8. 營業主ノ使用人 慰安婦 女給共ニ別紙様式ニ依リ

履歴書ヲ警備隊長ニ提出スルモノトス

昭和十六、三、奉送納

0378

第四 營業關係者（使用人、懸安婦、世給共）ノ散步行動
区域ハ別紙附圖ノ範圍トス

第五 營業者ノ監督指導検査ノ爲別表ノ通り役員ヲ
任命ス

第六 營業者ノ人員荷物其他一切ノ運搬ハ各自營業者ニ
於テ實施シ其ノ經費ハ一切營業者ノ負擔トス

又營業者ノ施設ニ要スル諸材料物資ノ購入等ハ
宣撫班ヲ通シ購入スルモノトス

第七 宣撫班ハ如上ノ諸材料物資等ノ購入ヲ營業主ヨリ願
出テタルトスハ維持會ヲ通シ便宜ヲ取リ計フモノトス

第八 營業者ハ役員ノ指導監督検査ヲ受ケ之ニ絶對
服従スルモノトス如シ

ノ營業主同家族使用人夫、世給ハ毎月十五日ノ公休日午
後ハ軍醫ノ健康診断ヲ受クルモノトス

0379

又慰安婦ハ毎月一日、十日、二十日、午前八時ヲ軍醫ノ健

康診断及検査ヲ受クルモノトス

第九 軍醫ハ右診断及検査ノ結果ヲ營備隊長ニ報

告スト共ニ本人及營業主ニ通報ス

又病人ニ對シテハ適宜ノ方法ヲ以テ治療ヲ行フモノトス

第十 營業者ハ不合格者アリタルトキハ之ヲ一室ニ纏メ接

客ヲ禁ゼンメ自室ニ標示スルモノトス

第十一 飲食店營業者ハ食中ノ毒防止ノ為毎日其日ノ

飲食物ノ少量ヲ醫務室ニ提出スルモノトス

醫務室ハ右検査食物ヲ二十四時間保管シ置クモノトス

第十二 公休日及清潔法

各營業者ハ一者ニ毎月十五日ヲ以テ公休日トシ營業ヲ

中止シ居住地内外ノ清潔法ヲ実施シ軍醫ノ莫檢

ヲ受クルモノトス

0380

昭和十六、三、奉監納

第一三 營業主ハ毎月ノ賣上高ヲ別紙様式ニ依リ翌月五日迄ニ警備隊長ニ報告スルモノトス

第一四 慰安所ヲ利用セシムル下士官以下ハ左ノ各項ヲ嚴守スベシ

1. 慰安所利用許可證ヲ携行シ在券ヲ購入スル際現金ト共ニ營業者ニ差出スモノトス

右許可證ハ聯隊本部ニ於テ發行ス

2. 慰安所内ニ於テハ飲食スルコトヲ得ス又飲食物ヲ携行スルコトヲ禁ス

3. 慰安婦及營業者ニ對シ粗暴ノ言動ヲ禁ス

4. 利用時同ヲ嚴守シ他人ニ迷惑ヲカクベカラス

5. 營業者其ノ他慰安婦、女給等ニ對スル一切ノ貸借關係ヲ嚴禁ス

第一五 慰安所ヲ利用シ得ル毎日ノ時間大知シ

0381

兵ハ	一〇〇〇〇	一七〇〇	近
下士官ハ	一七〇〇	二二〇〇	近
准士官以上	六〇〇	二二〇〇	近
第一大懸安所ノ料金ヲ當分ノ間左ノ如ク定ム	三十分	一時間	
兵	一用	二用	
下士官	一、二〇	二、四〇	
准士官以上	—	三、〇〇	二十四時以降一〇、〇〇
備考	一、千ツノ等ハ一切交付セサレモノトス		
	又、サツクハ營業者ノ負擔トス		
	三、皇軍以外ノ者ハ接客ヲ嚴禁		
	第一七、各隊ノ利用日配當別紙ノ如シ		
	但シ公休日ニ當リタル場合ハ利用ヲ禁ス		

昭和十六、三、奉監納

0382

陸軍

第一八、飲食店ノ営業時間左如シ

毎日一〇〇〇ヨリ二四〇〇迄トス

公休日其他営業関係者ノ健康診断等慰安所ニ

準ス

第一九、営業者ハ特ニ懇切丁寧常ニ清潔ニ注意シ諸

條項ヲ嚴主スルベト

若シ諸條項ヲ守ラサルトキハ営業ヲ停止シ或ハ退去ヲ

命ス

其他不明事項アルトキハ役員ニ申出テ決裁ヲ受クルス

トス

第二〇、営業開始ハ十月十三日ヨリ許可ス

昭和十五年十月十日

警備隊長 高森大佐

0383

附表二

地方営業者居住地附近ノ教習隊及

軍紀風紀ノ取締規定

一 本勤務ニ服スルモノハ隊本部日直士官ノ区處ヲ受ケ

敵匪及土民等ヲ近寄ラシメズ

其ノ他軍紀風紀ノ取締ニ任スルモノトス

二 編成及勤務期間其他

長

下士官

歩哨掛

兵 六

勤務時間ハ毎日〇九ニヨリ翌朝起床時限迄トシ

同時任務解除トス

三 各隊ハ大記区分ニヨリ前項勤務者ヲ差出スモノトス

陸軍

陸軍

附表三

各隊利用日配當表

部	聯隊本部	利	甲	日	(曜)
第一大隊本部(豫存季)	土				
第一中隊	土				
第二中隊	日				
第三中隊	月				
第一大隊隊列	火				
第二大隊隊列	水				
第一大行季	木				
第二大隊本部(豫存季)	土				
第四中隊	火				
第五中隊	日				
第六中隊	月				
第三大隊隊列	水				
第三大隊大行季	木				
聯隊隊列	金				

備考

一 倉月十番、公休日二當り名部隊(利用ヲ中止スル)

0387

昭和十六年三月

附表第四

營業主名

第一魁安所

飲食店

寫真屋

弘原榮

崔金石

藤川實義

陸軍

0388

附表 五

第何慰安所 何月分賣上高報告

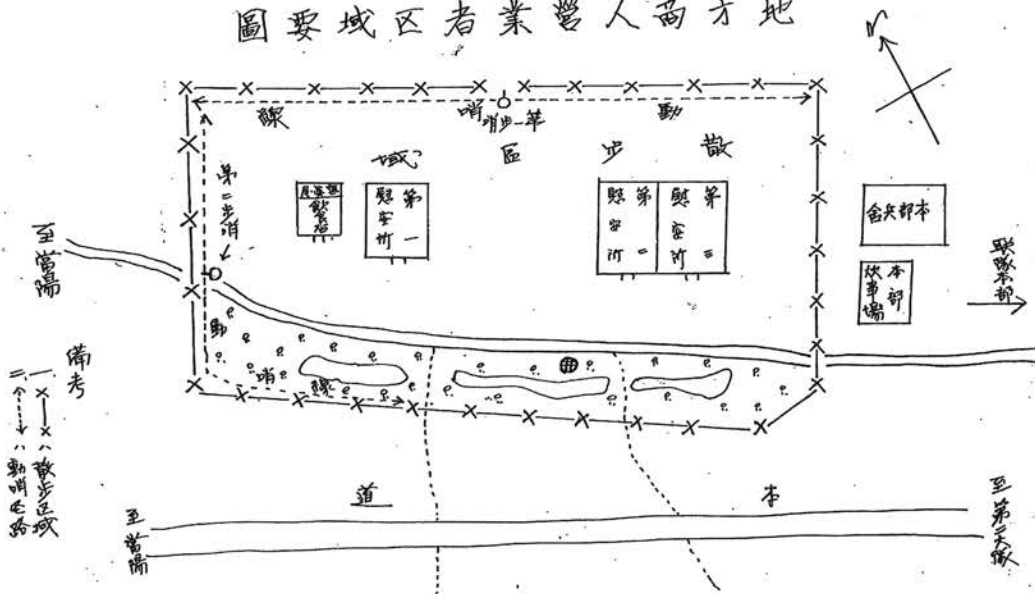
年 月 日 營業並 何 某 (印)

何 某	何 某	藥 名		人員	准 士官以上	下 士官	兵	合 計
		人員	賣上高					
一	三							
一 〇 〇	九 〇 〇							
七	五							
四 五 〇	七 五 〇							
五	六							
五 〇 〇	六 〇 〇							
一 九 五 〇	二 二 五 〇							

昭和十六、三、奉監稿

0389

地方商人業者区域要圖



0390

十月十三日

晴

四ヶ家洲

當陽東南地區に於て敵言備に任ズ

一回の別紙の日日命令下達ス

聯隊長の化學戰教育、爲當陽西北方枯嶺

山演習場へ出張

0392

十一月十日
晴午前
雨午後

常陽東南方地區ニ於テ警備ニ任ズ

一回々別紙日命令下達ス

隊長ハ此等戰教育ノ爲常陽西北方桔山藩
山演習場ハ本場

大坂・宮崎藩

0393

陸軍

日日命令 十月十三日

陸軍曹長 提光春

機密書類、返納受領其地事務連絡、為明

後十五日ヨリ七日、予定ヲ以テ、漢口及葛店ニ出張シ命ズ

三 陸軍曹長 河野 栄

同 軍曹 宮脇 國史

同 同 吉塚 悟

同 同 堤 虎雄

被叙勳八等授瑞宝章 八月十六日附

三 陸軍軍曹 梶右 直正

同 同 石原 清治

同 同 奈須 道春

被叙勳八等授瑞宝章 九月十五日附

四 第一大隊ハ左記ノ通リ明十四日ヨリ九日ニ兵団

0394

特別教育場ニ居坐ニテ知中尉ノ指揮ヲ受ケシムベシ

左記

1. 將校ノ指揮スル定左一個石隊

2. 觀測 觀下一觀測平一四測遠機一砲隊鏡一

3. 通信 通下一通信平 三電話機一電話線一卷

4. 其他 田匙三十字鏃三

會報

一 保管兵器檢査所見ヨ各隊一部宛配仰ス

昭和十六、三、三、三、三

0395

陸軍

日々 命令

一 來ル十月、日(初年兵到着、翌々日)ヨリ三ヨリ聯隊

合同慰靈祭及感狀授與式並内地歸還者ニ對ス

本職、訓示ヲ行フ依テ左ノ通リ心得ベシ

ノ順序

合同慰靈祭ノ感狀授與式ノ訓示

一三ヨリヨリ角力大會ヲ實施ス

二 集合隊形及部隊指揮

各隊ハ當日ヨリ九ニヨリ占ニ祭場ニ集合其隊形ハ聯隊

副官ヲシテ指示セシム

聯隊、指揮官ハ當地ノ左トス

三 服裝准士官以上單独、軍裝トシ略授佩用、下士官

以下是脚絆帶劍ノミトス

二 委員長

内藤少佐

0396

委 員	駐隊副官
"	福田中尉
"	篠崎少尉
"	其他各本部各隊より將校一名宛
"	助平本部各隊より下士官一名宛
各頭書、通合同慰靈祭施行委員及司助平、ヲ命ス	
三合同慰靈祭終了後(一〇四ト隊定ス)令般授与セラレ	
タル感状授与式ヲ施行ス	
依テ左ノ通り心得ニ	
集合及隊形	
駐隊ハ宮地ヲ依リ指揮ヲ以テ一〇三ト占ニ東面ニ集合スベシ、其ノ隊形ハ	
四 感状授與式ニ引續キカ地歸還者ニ対スル本職ノ訓示ヲ行フ左ノ通り心得ニ	

昭和十六、三、奉陸納

0397

陸軍

1. 實施順序

(1) 内地歸還者、申告

内地歸還者中、先任者ハ一同代表ニ申告ヲ行フ

(2) 訓示

(3) 代表、挨拶

2. 隊形

(1) 内地歸還者ハ淺田中尉、指揮ヲ以テ第一線ニ

整列スル、糧隊

(2) 其他ハ第一線ニ整列シ官地ヲ佐、指揮ヲ受ケベシ

其他細部ニ關シテハ隊隊副官ヲ以テ區別者セシム

當日一飯ニ晝食ヲ携行スベシ

五 陸軍軍曹 白木 孫

同 菅川 雄

同 後藤 保

0398

陣中日誌用紙

陸軍

十月十五日

雨

罗家洲

當陽東南方地区ニ於テ敬言備ニ任ズ

一回ヨリ別紙ヨリ命令下達ス

聯隊長ハ化鎗子戰教育ヲ爲シ當陽西北方枯

山密山瀆習場ニ出場ス

0400

十月十五日
晴雲
罗家洲

當陽東南方地區ニ於テ敬言備ニ任ス
一回々別紙日命令ラ下達ス
聯隊長ハ化學戰教育ノ爲當陽西北方枯山
山演習場ニ出場ス

大坂・宮崎納

0401

陸軍

曰々命令

十月十五日

一 來ル十月十九日 監鳴兵團ニ於テ施行セラル、軍隊
教育令普及 教育專習員トシテ左記ノ通出席ヲ命ス

左記

西大隊長

聯隊 紋引長

各中隊長

各大隊 紋引長

一 第一線 配屬中隊長ハ各配屬部隊長ノ認可ヲ

受ケ出席スベシ

二 監鳴兵團ニ於テ下士官以下ノ外出 制限ヲ制定セラレ

タルニ依リ 聯隊ノ外出 制限ヲ左記ノ通リ改ム

下士官ハ 一九〇〇占

兵 一七〇〇占

三 慰安業務規定 第一五ノ利用時間ヲ左ノ如ク變

更ス

0404

日 々 命 令

十月十六日

陸 軍

一 天皇陛下ニハ十月十八日十時十五分靖國神社ニ

御親拜遊サレ依ツテ各隊ハ同時刻ヲ期シ適宜

送拜式ヲ饗奉ル行スベシ

0406

十月十七日
曇 午前
晴 午後
羅家洲

十月十八日
曇
時々小雨
羅家洲

當陽東南方地區ニ於テ敬言備ニ任ズ

當陽野戰倉庫ヨリ糧秣五日分ヲ受領ス

聯隊長ハ化鴉子戰教育ノ爲當陽西北方枯

山嶺山演習場ニ出場本日ヲ以テ集合教育月ヲ終

了ス

當陽東南方地區ニ於テ敬言備ニ任ズ

一四〇〇別紙曰日命令ヲ下達ス

萱嶋兵團視察ノ總參謀長出迎ノ爲自

動車ニテ聯隊長兵團本部へ出頭ス

一四〇〇別紙聯隊長命令ヲ下達ス

十月十九日

學

羅家洲

當陽東南方地區ニ於テ教育備ニ任ズ

四〇〇別紙ヨク命令ヲ下達ス

聯隊長ハ軍隊教育令普及教育ノ爲ニ賞

兵團本部ニ出頭ス

大坂・宮崎

0409

陸軍

日々命令

一五、一〇、一八

一 陸軍主計中尉

福田秀行

右内地飯還者輸送業務経理官トシテ内地

出張ヲ命ス依ツテ飯還者ト同行シ任務終了後飛行

便ニ依リ速カニ飯還スベシ

二 陸軍少尉

内田奉太郎

右内地飯還者ト同行シ淺田中尉ノ業務ヲ幫助

スベシ

三 陸軍曹長

河野 崇

豫備役編入ヲ命ズ

四 明十九日ヨリ 陸隊酒保ヲ開設ス依ツテ各隊ヨリ左記

ノ通り人員ヲ差出シ 福田中尉ノ届書ヲ受ケシム

ベシ

0410

各隊ヨリ差出ス兵ハ成ルベク生菓經驗アル者ヨリ 選定ス止ムヲ得サル場合ハ適任者タルヲ要ス	備考	聯隊本部	第一大隊	第二大隊	聯隊序列	兵記	下士官	兵	摘	要
		一	一	一	一	一	一	一	一	一
		一	一	一	一	一	一	一	一	一
		一	一	一	一	一	一	一	一	一

昭和十六年三月奉送納

0411

獨山三作命第一三一號

聯隊命令

十月十八日 四ノ家

一 第一大隊長ハ城ルベク速カニ有園地區隊ニ配屬

中ノ一 小隊ヲ他中隊ト交代セシムベシ

二 予ハ四継家州 聯隊本部ニ在リ

聯隊長 高木 大佐

ト 違法豫メ要旨傳達シタル後印刷配付

陸軍

0412

陸軍

日々命令

十月十九日

陸軍主計中尉

福田秀行

護衛兵

二名

右前度資金支領其他經理事務連絡及葛香警備
地区残留者俸給支給為明後二十一日ヨリ六泊七日ヲ予定
ヲ以テ漢口及葛香ニ出張ヲ命ス

二事務連絡ノタメ左ノ通リ出張ヲ命ス

一大隊本部

陸軍上等兵

一田徳

第一中隊

右中

上田美義

聯隊校列

陸軍軍曹

本村本弥八

0414

陣中日誌用紙

陸軍

十月二十日

雨

罗家洲

當陽東南方地区ニ於テ警言備ニ任ズ

一四〇〇別紙命令ヲ下達ス

十月第三旬警言備旬報別紙、如シ

0416

十月二十日
雨
羅家洲

當陽東南方地ニ於テ敬言備ニ任ス

一回ハ別紙日同命令ヲト達ス

聯隊長ハルル本部出發(下士官兵二名)

第四中隊ノ陣地ヲ視察ス兵團ヨリ參謀司

行ニテ歸隊ス

三月葛香ニ於テ入隊ニ向也ニ在リテ教育中ナリシ

初年兵教育者六百八十二名一六〇〇到着ス

大坂・宮崎(納)

0417

